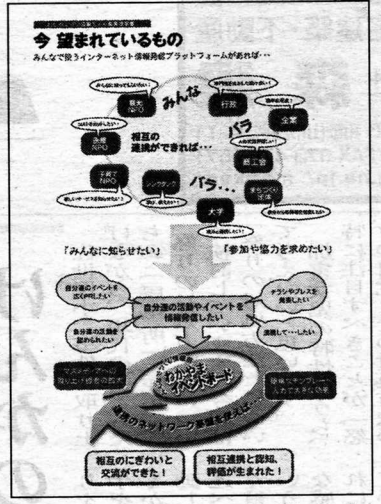
主催イベント自ら発信

わかやまイベントボード　団体相互連携も視野



個人や各種団体が主催イベント情報を手軽に発信でき、また、一元発信することで相互連携も可能な「わかやまイベントボード」が十七日、インターネット上に開設された。わかやまインターネット市民塾（坂口總之輔理事長）が県の委託で始めたもので、各種イベントを日程や分野、地域、主催者などで検索できるのが特徴。イベントボードを担当する同塾の糀谷昭治理事は「各団体が主体的に情報発信することで、他の団体の活動状況が分かり、協働につながってゆく」と考えている。

イベントボードは県内で活動している個人や団体、また、行政、企業が主催するイベントを自らインターネットで紹介していく仕組みだったが、一般に広報していなかったことから、入力団体が限られており、情報の大半は事務局が収集した内容にとどまっていた。それでも、月に百件以上の情報を流していた。

イベントボードはNPOボードの手法を踏まえ、新開発したシステムで、インターネット市民塾が中心となり運営を始めた。掲載を希望する主催者がHPから申請、審査をクリアすれば登録され、情報を書き込める。

WCANでNPOボードを担当していた糀谷理事は「定着すれば、月に千件ほどの情報が入る」とみる。これについて、「NPOなどはどこでも他団体と交流を考えているが、現実は自らの活動だけで精一杯」と現状を明かし、その上で、「イベントボードから主体的に情報発信することで、同様に情報を発信する他団体の情報が得られる」と説明する。

イベントボードは県の「わかやまNPO協働モデル事業」として実施しており、開設は来年二月末までの予定だが、その間に利用状況調査やアンケートを実施し、三月以降に本格運用する方針。

糀谷理事は「各団体が少しずつ自分たちの情報をイベントボードで発信すれば、充実した情報プラットフォームができる。団体間の協働に最適のシステム。これを和歌山モデルとして全国に広めたい」と願っている。

詳細はイベントボード（http://wakayama.shiminjuku.jp/eventboard/）。